

経営方針

① 経営の基本方針

当社は、「お客様に幸福感を味わっていただける商品を提供する」ことを経営理念として掲げております。

新時代にふさわしい商品を提供することですべてのお客様に毎日元気で安心して暮らしていただくこと、すなわち、当社の商品に出会うことで「ほっとする美味しさ」「今までにない楽しさ」を味わっていただくことを、最大の企業の目標としております。

具体的には「ソースを核に日本の洋食を進化させる企業ブルドックソース」という事業目的に基づき、新しい存在価値をもった企業像「FOOD ESSENCE COMPANY」をめざしてまいりたいと考えております。

② 利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策と考えております。

利益配分につきましては、財務体質強化及び将来の経営基盤の拡充に備えた内部留保に努めながら、利益状況や業界状況を総合的に勘案の上、安定的な配当を継続的に実施することを基本としております。

③ 投資単位の引下げに関する考え方及び方針等

当社は、投資家の皆様による当社株式の長期安定的な株式保有を促進するとともに、投資家層の拡大を図ることを、資本政策上の重要課題と認識しております。

投資単位の引下げにつきましては、現在の投資金額を勘案し、その費用並びに効果を慎重に検討し対処していく所存であります。

④ 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

当社は「ソースを核に日本の洋食を進化させる」という事業目的達成にむけて中長期的に下記の事業戦略方針を掲げております。

1. 主力事業であるソース事業の強化、深耕
2. ソース事業以外の新規家庭用調味料の事業展開

時代の価値観にあった付加価値の高い新製品の開発、スピーディーな市場への投入、そして新しい市場の開拓により売上拡大を図ります。

また、利益成長を経営目標に株主価値の最大化を図るために資本効率を高め、売上高経常利益率及び株主資本利益率(ROE)が現在の水準よりさらに向上することをめざしてまいります。

⑤ 経営管理組織の整備等に関する施策

当社の取締役会は、重要な業務に関する意思決定機関及び代表取締役並びに業務担当役員の業務執行に関する監督機関として、原則として月1回、また必要に応じ随時開催しております。

経営会議では、業務執行に関する基本事項を審議するほか経営に関する事項を広く協議し、業務執行上の重要事項の報告を受け、さらに意思決定のスピード化に対応できる経営体制を整備しております。

経営成績及び財政状態

① 当中間期の概況

当上半期のわが国の経済は、輸出の増加により一部明るい兆しが見られ景気底入れが期待されたものの、設備投資や公共投資が減少し、所得・雇用環境の悪化の中で個人消費も低迷するなど厳しい状況で推移しました。

食品業界におきましては、消費者の食に対する信頼を揺るがす問題が続発する一方、個人消費の低迷が長期化するなど、市場及び経営環境はまことに厳しい状況でありました。

このような状況の下、当上半期の売上高は69億8千5百万円(前年同期比0.8%増)、経常利益は5億3千7百万円(前年同期比15.5%増)、中間純利益は1億4千2百万円(前年同期比1,715.1%増)となりました。

ソース類及びその他調味料

家庭用商品では新ブランド商品「ユアブレンズ有機野菜使用のソース 300ml」の消費者向け販売促進を強化した結果、より安全な商品を求める消費者に支持され堅調に推移しました。

主力商品につきましては、メニュー提案により市場の活性化と需要の拡大に取り組んでまいりました。

また、「FOOD ESSENCE COMPANY」の実現に向け、健康を気づかう世代に向けた新しいヘルシーソースクッキング「ボイルdeあえるソース」5品種と「クッキングソース」4品種を8月に新発売しました。

一方、業務用商品では、産業給食や外食産業の新規チャネルの開拓を積極的に進めるとともに、コンビニエンスストア向けの弁当・惣菜のメニュー提案を行い新規商材の獲得に努めた結果、小袋商品やプライベート・ブランド商品が順調に推移しました。

その他の調味料では、小売店向け「月島もんじゃ焼」商品の育成を図り、認知度を高めるために店頭での販売促進活動を積極的に展開してまいりました。

以上のような結果、売上高は69億5千5百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

その他

不動産賃貸収入は、マンション及びビルの入居者の減少により2千9百万円(前年同期比9.1%減)となりました。